

IV-70

リゾート行動モデル作成のための 要因関連分析

立命館大学理工学部 正 員 春名 攻

立命館大学大学院 学生員○山田 孝弘

1. はじめに

近年、全国各地で地域振興をめざしたリゾート開発計画が実行に移されようとしている。これらのリゾート開発を成功に導くためには、リゾート客のニーズを把握した上で開発計画を策定することが重要である。そこで本研究では、リゾート客の行動モデルの作成をめざした第1段階の研究として、リゾート行動に関するアンケート調査を実施し、リゾート客の意向・動向を分析した。さらに、この分析結果から、リゾート客のリゾート地選定行動に影響を与える要因を把握することとした。

2. アンケート調査の概要

本研究では、その前提条件としてリゾート客の行動仮設を図-1に示すように設定した。この仮設に沿ってアンケート質問の項目を設計し、平成2年1月にアンケート調査を実施した。調査は、個人属性、リゾートに対する関心度、さらに実際のリゾート行動について交通手段や費用、そしてリゾート地を選

定する際に考慮した事柄などを質問した。アンケート配布数は188部で有効サンプル数は148であった。

3. 調査結果

回答者の特徴としては、40代の割合が多く(42.6%)、その回答者の内男性の割合が多かった(75.0%)。また、サンプルのほとんどが社会人層であった(85.8%)が、今後の生活で力点を置く項目については、「レジャー・旅行・余暇生活」の占める割合が多かった。しかし、リゾートイメージについては、年代別にほとんど差はなかった。さらに、リゾートに対する関心度は、レジャー・旅行回数(年平均)に影響されていることが推測できた。そして、リゾートに対する関心度は高いが、「どちらでもない」という中間層の割合も多く(33.1%)、また、リゾートイメージにおいて「日帰り」は、3.4%と非常に低かったが、この点に関しては調査結果に関して若干の疑問が残った。つまり、本調査における

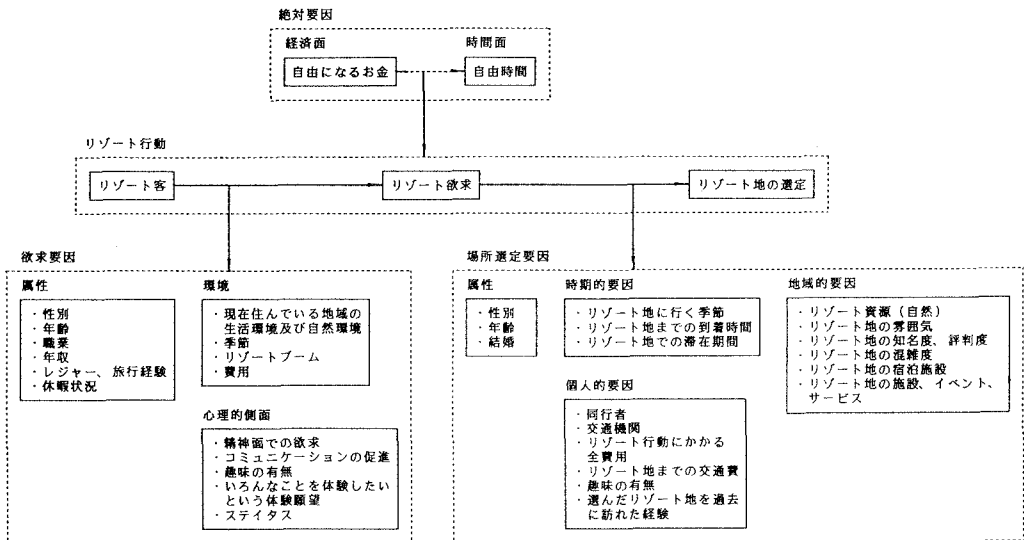


図-1 リゾート客の行動仮設

日帰り型リゾートに関する調査データは、有効性に欠けているのではないかと考え、今後の課題とした。そして、滞在型リゾートでは、リゾート＝夏のイメージが強いことが推測できた。また、現状のリゾート行動は短期集中型が中心であり、宿泊施設では、リゾートホテルやリゾートマンションも人気があり、昨今のリゾートブームに影響されていることが推測できた。さらに、今後関心のあるリゾートタイプでは、若年層では「内陸型スポーツ型」、高齢層では「保養・滞在型」、「温泉型」であった。

4. リゾート地選定行動要因に関する分析

リゾート地選定行動の要因分析を数量化理論第Ⅱ類を用いて行った。外的基準にはリゾート地をとり、リゾート地選定行動の影響要因は、クロス集計等の結果より抽出した。分析の結果、リゾート地選定の際に最も影響力の強い要因は、表1、表2のレンジの大きさから判断すると年齢であり、続いてリゾー

表1 リゾート地選定行動要因の数量化Ⅱ類による分析結果（1軸-その1）

アイテム	カテゴリー	サンプル数	カテゴリー数量	レンジ
年齢	22歳以下	6	0.14012	2.99213
	23～29	10	-0.07139	
	30～39	13	-0.49881	
	40～49	32	0.18771	
	50～59	5	0.55715	
	60歳以上	1	-2.43498	
リゾート関心度	普通	21	-0.33710	0.61614
	少し関心がある	33	0.27903	
	非常に関心がある	13	-0.16376	
リゾートタイプ	マリナ型	5	1.66951	2.24948
	海水浴型	7	1.24337	
	スキー型	5	-0.51356	
	内陸型スポーツ型	5	-0.22693	
	保養・滞在型	17	-0.57997	
	温泉型	9	0.29721	
	歴史・伝統型	2	0.20730	
	複合型	17	-0.38698	
リゾート地に行く季節	春頃	5	0.53732	0.80443
	夏頃	30	0.02605	
	秋頃	9	-0.05188	
	冬頃	6	0.25665	
	特定しない	17	-0.26712	
リゾート地での滞在期間	2～3泊	28	0.29698	1.02981
	3～4泊	22	0.00901	
	4～5泊	6	-0.73284	
	5泊以上	11	-0.37423	
同行者	家族	42	-0.07641	0.92236
	夫婦	7	0.61863	
	恋人	2	-0.30373	
	自分だけ	1	-0.13171	
	友人・知人	15	-0.02548	
交通機関	鉄道	28	0.13219	1.42423
	貸切りバス	2	-0.50431	
	自家用車	27	0.22281	
	レンタカー	2	-0.05417	
	バイク	1	-0.19027	
	航空機	7	-1.20142	

ートタイプ、リゾート行動にかかる全費用の順となっている。この結果より、実際の行動は、年齢に大きく影響されていることが考えられる。また、本分析において抽出した要因群が、リゾート地を選定する際の直接的な要因であるために相関比は高い値となり、外的基準はよく判別できたといえる。しかし、実際のリゾート行動メカニズムの構造は年齢別に異なっており、まず、いくつかの候補地が決まり、それから直接的な要因に影響されて1つのリゾート地を決定する2段階の構造になっていることが推測できた。（その他、本分析では行動要因に関するいくつかの分析的な検討を行ったが、紙面の関係上、ここでは省略する。）

5. おわりに

本研究により、リゾート客の意向・動向の把握と、リゾート地選定行動の際の影響要因を抽出することができ、リゾート開発計画策定の際の有効な支援情報が得られたと考える。今後は、さらに詳細な調査を行うことにより、年齢別にリゾート地選定行動メカニズムを解明していく必要がある。

表2 リゾート地選定行動要因の数量化Ⅱ類による分析結果（1軸-その2）

アイテム	カテゴリー	サンプル数	カテゴリー数量	レンジ
リゾート地までの到着時間	1. 5～2	4	-0.19337	0.57773
	2. ～2. 5	6	0.15127	
	2. 5～3	13	0.38436	
	3時間以上	44	-0.11661	
リゾート行動にかかる全費用	10,000～15,000	3	1.47142	2.05859
	15,000～20,000	5	0.48968	
	20,000～30,000	15	0.29506	
	30,000～50,000	18	-0.58717	
	50,000～100,000	21	-0.26626	
	100,000円以上	5	0.97438	
リゾート地の宿泊施設	ホテル	13	0.16132	2.05460
	旅館	12	0.35610	
	民宿	9	-0.38328	
	ペンション	12	0.04921	
	別荘	2	0.95741	
	リゾートホテル	16	-0.24508	
	リゾートマンション	2	-1.09709	
	会員制ホテル	1	0.68930	
外的基準	信州	19	-0.82578	相関比 0.91592
	北海道	11	-1.33349	
	沖縄	6	0.07863	
	南紀	26	0.96463	
	丹後	5	0.96125	